

一般外科(内視鏡外科)、乳腺外科 専門医研修ネットワークプログラム

浜松医科大学第1外科プロデュース

1 はじめに

プログラムリーダー

浜松医科大学医学部一般外科（内視鏡外科）科長 和田英俊
乳腺外科 科長 小倉廣之

このプログラムは静岡県内の研修病院で、外科専門医、消化器外科専門医、乳腺専門医を養成することを目的に作成しました。基本的な知識から専門的な手技までを充実した指導医のもとで習得できるようにプログラムを作成しています。

消化器外科、乳腺の専門医を目指す皆さんの積極的な応募を期待しております。



2 目的

まず、外科の基本を習得し日本外科学会外科専門医の取得を目指します。その後、消化器外科領域または乳腺外科領域を専門的に学び、日本消化器外科学会消化器外科専門医または日本乳癌学会乳腺専門医を取得することを目的としています。さらに内視鏡外科手術を習熟できれば、日本内視鏡外科学会技術認定医の取得も可能です。

3 目標

各学会専門医の取得に必要な診療経験と業績を満たすように指導致します。専門医の取得は言うまでもなく、外科医として必要な知識と技術、経験、思考を身に付けることが目標です。

なお、2017年4月から日本専門医機構による新しい専門医制度が開始される予定ですが、各学会から新しい制度での認定要件が公表されていないため、下記には2015年度の申請資格を記載します。

【日本外科学会外科専門医の申請資格】

1. 修練開始登録後満4年以上で予備試験（筆記試験）を受験
2. 予備試験合格後、修練開始後満5年以上で、規定の修練をすべて経験した段階で認定試験（面接試験）を受験

[修練概要]

1. 診療経験

最低手術経験数 350 例、（領域別分野を問わず）術者 120 例、（術者・助手を問わず）消化管及び腹部内臓 50 例、乳腺 10 例、呼吸器 10 例、心臓・大血管 10 例、末梢血管 10 例、頭頸部・体表・内分泌外科 10 例、小児外科 10 例、外傷 10 例、（領域別分野・術者・助手を問わず）鏡視下手術 10 例

2. 業績

筆頭者として学術集会または学術刊行物に研究発表または論文発表（20 単位）

【日本消化器外科学会消化器外科専門医の申請資格】

1. 日本外科学会専門医であること
2. 継続 3 年以上日本消化器外科学会会員であること
3. 臨床研修終了後、指定修練施設で通算 5 年間以上の修練（450 例以上の診療経験）を行なっていること
4. 業績として消化器外科に関する筆頭演者として研究発表を 6 件以上（論文 3 編を含む）
5. 研修実績として日本消化器外科学会の総会 1 回以上の参加及び教育集会全 6 領域の受講

【日本乳癌学会乳腺専門医の申請資格】

1. 日本乳癌学会認定医であること
2. 継続 5 年以上日本乳癌学会会員であること
3. 臨床研修終了後、指定修練施設で通算 5 年間以上の修練（100 例以上の診療経験）を行なっていること
4. 業績として筆頭者として 1 編以上の乳腺疾患に関する研究（症例報告も含む）を医学雑誌に発表したもの、または本学会を含む全国学会で 2 件以上発表したもの、または本学会を含む全国学会で 1 件・なおかつ本学会地方会で 2 件以上発表したもの、いずれかとする
5. 研修実績として日本乳癌学会総会もしくは資格認定委員会が定めた諸学会の学術集会またはこれらが主催する教育セミナーの参加

【日本内視鏡外科学会技術認定医の申請資格】

1. 申請時に日本内視鏡外科学会会員であること
2. 日本外科学会専門医あるいは指導医であること
3. 胆嚢摘出術などであれば 50 例以上、大腸切除、胃切除などであれば 20 例以上を、術者あるいは指導的助手として経験していること
4. 専門領域の内視鏡下の advanced surgery を独力で完遂でき、これらの手術の指導ができること。
5. 本学会並びに関連学会が主催、またはこれら学会が公認または後援する内視鏡外科に関するセミナーを受講していること（合計 14 点以上）。
6. 内視鏡外科手術に関する十分な業績を有すること（論文 2 編（著者）、学会発表 3 件）。

4 特徴

当プログラムは各研修病院の特徴を生かした多岐にわたる研修を行なえることが特徴です。個々の研修実績に合わせてプログラム運営委員会と相談の上、効率的なプログラムを作成することが可能です。

5 研修カリキュラム

当プログラムに参加後すぐに日本外科学会に入会して頂きます。その後、日本外科学会の修練実施計画に基づいて指定施設または関連施設で研修を行ないます。消化器外科専門医を目指す場合は卒後 4 年目までに日本消化器外科学会に入会して頂き、指定修練施設で研修を行ないます。

また乳腺専門医を目指す場合は当プログラム参加後すぐに日本乳癌学会に入会して頂き、指定修練施設で研修を行ないます。原則的には各々の研修病院を2年毎にローテーションして研修を行ないます。

6 研修例

A 病院 (1.2 年目)	B 病院 (3.4 年目)	C 病院 (5.6 年目)
---------------	---------------	---------------

7 研修病院群

①浜松医科大学医学部附属病院

指導医：一般外科（内視鏡外科）科長（第一外科講師） 和田英俊

日本外科学会指導医・専門医、日本消化器外科学会指導医・専門医、日本内視鏡外科学会技術認定医、消化器がん外科治療認定医

一般外科（内視鏡外科）では1990年から腹腔鏡手術を、1996年に細径鉗子を使用したneedlescopic surgeryを、2009年には単孔式腹腔鏡手術を開始しており、消化器外科領域の低侵襲手術(Reduced Port Surgery)に取り組んでいます。2014年の手術実績は鼠径ヘルニアから消化器癌（胃癌、大腸癌、膵癌、肝癌など）まで186例の手術を行ないました。そのうち腹腔鏡手術は131例（70.4%）で、単孔式腹腔鏡手術は46例でした。

当科の研修では低侵襲手術について積極的に学んで頂けたら幸いです。また、第一外科には心臓血管外科、呼吸器外科、乳腺外科があり、多角的な発想を身に付けることができ、外科専門医の取得における症例経験にも有利です。

さらに大学病院では特殊で専門的な疾患も経験できるため、他科との合同のカンファレンスなどで様々な知識を得ることができます。

指導医：乳腺外科科長（第一外科病院講師） 小倉廣之

日本外科学会指導医・専門医、日本乳癌学会乳腺専門医、マンモグラフィ読影医（A）、超音波検診医（A）

乳癌の治療は、外科・放射線治療などの局所治療のみならず、化学療法や内分泌療法、抗体療法などの全身療法をうまく組み合わせることで治癒を目指します。そのために治療方針決定に際して、外科医のみならず、放射線診断医、腫瘍内科医、がん化学療法認定看護師、薬剤師、臨床検査技師など多職種が参加するカンファレンスのなかで十分な検討を行っており、専門医を目指す先生にとってとても有意義と考えております。

②浜松医療センター

指導医：副院長兼外科科長 西脇由朗

浜松医科大学臨床教授、日本外科学会専門医・指導医、日本消化器外科学会専門医・指導医、日本消化器病学会専門医・指導医、日本内視鏡外科学会技術認定医、日本肝胆膵外科学会高度技能指導医、日本胆道学会指導医、日本レーザー医学会専門医・指導医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医／暫定教育医、消化器がん外科治療認定医

指導医：手術センター長 兼 医長 池松禎人

浜松医科大学臨床教授、日本外科学会専門医・指導医、日本消化器外科学会専門医・指導医、日本消化器病学会専門医・指導医、日本肝胆膵外科学会高度技能指導医、日本胆道学会指導医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医／暫定教育医、消化器がん外科治療認定医、日本医学英語検定3級

指導医：乳腺外科科長 徳永祐二

浜松医科大学臨床准教授、日本外科学会専門医・指導医、日本乳癌学会専門医、マンモグラフィ読影認定医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医／暫定教育医、日本消化器病学会専門医・指導医

浜松市が設置し、浜松医療公社が経営する地域支援病院、癌拠点病院である。1973年の開設当初から開業医のオープンシステムを取り入れ、病診連携に力を入れてきた。浜松医科大学の教育関連病院でもある。2013年4月公益財団法人に移行した。消化器内科との連携を強めるため2006年から消化器センターとして同一病棟で入院診療を行っている。鏡視下手術を積極的に導入している。消化器外科の常勤スタッフ数は8人、乳腺外科のスタッフ数は2人。毎週術前カンファランス＋病理検討会、画像カンファランス、術後カンファランスを行い、チーム医療を推進している。最新の欧米論文の抄読会や手術手技の輪読会などの勉強会も充実している。

2014年1月から12月までの手術総件数は985件。この内緊急手術は220件(22.3%)。大腸癌切除95件(腹腔鏡補助下切除18件)、胃癌切除44件(腹腔鏡補助下8件)、乳癌切除159件、肝胆膵癌切除27件、甲状腺癌切除12件、胆嚢摘出術80件(ラパコレ68件)、ソケイ部のヘルニア133件、虫垂切除術640件、腸閉塞手術30例、皮下埋め込み式ポート留置術162件、その他179件(悪性リンパ腫、GIST、脾臓腫瘍、副腎腫瘍、胃食道静脈瘤、胃十二指腸潰瘍、良性の腸疾患、ソケイ部以外のヘルニア、肛門疾患、外傷など)。

大腸癌の鏡視下手術は増加しており、胃癌も早期癌を対象に鏡視下手術を徐々に導入している。噴門側胃切除術、Roux-Y再建法を積極的に採用し、大腸癌の肝転移に対しては肝切除を積極的に施行している。膵癌に対しても門脈合併切除を行い、切除率を向上させている。胆嚢癌(特に漿膜下層浸潤例)には肝S4a+S5以上の肝切除＋胆管切除を採用している。急性胆嚢炎に対しては緊急ラパコレが増加している。外来化学療法室を利用し、術後を中心にポートを埋め込み化学療法を施行している。内視鏡下粘膜下層剥離術(ESD)の対象からはずれた早期の胃癌、食道癌などにレーザー治療(光線力学的治療PDT)を行っている。乳癌の治療法には手術、放射線療法などの局所治療と、抗がん剤、ホルモン剤、分子標的治療薬などの全身治療があるが、個々の患者の癌の性質に応じた最適な治療方法を提供している。

患者さんとそのご家族に納得のいく説明を行い、合併症の少ない手術を施行し、適切な化学療法を行い、良好な治療成績をあげることを目指している。

③聖隷浜松病院

指導医：乳腺科部長 吉田雅行

日本外科学会指導医・専門医、日本乳癌学会乳腺専門医

指導医：肝胆膵外科部長 町田浩道

日本外科学会指導医/専門医、日本消化器外科学会指導医/専門医、日本救急医学会専門医、日本内視鏡外科学会技術認定医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医/暫定教育医

指導医：消化器外科部長 鈴木一史

日本外科学会専門医、日本消化器外科学会認定医

指導医：大腸肛門科部長 小林靖幸

日本外科学会専門医・指導医・日本消化器外科学会専門医、指導医

指導医：主任医長 牛田進一郎

日本外科学会指導医、日本外科学会専門医、日本乳癌学会認定医

当院は、58 の専門科が存在し地域がん診療連携拠点病院として全国有数の手術件数実績があります。また総合周産期母子医療センター・救命救急センターを設置しており、地域医療支援病院として地域に根ざした患者にやさしい医療を実践しています。

当院の外科は虫垂炎やヘルニアなどの一般外科診療と消化器、呼吸器、乳腺などの癌を中心とした専門医療や小児外科の専門医療を行なっています。専門分野は 6 部門に分化していますが、外科全体としてカンファレンスを開催し、救急医療を行なってチーム医療に努めています。

年間の手術症例は 2,000 例前後を超えており、全員参加の手術症例術前術後カンファレンス、死亡例検討会、勉強会や内科スタッフとの内科外科検討会、病理医指導のもと切除症例の病理検討会、緩和ケアカンファレンスなど精力的に取り組んでいます。

また新生児医療における新生児科と小児外科との連携のように院内各科との連携も密に行なって、治療の向上に努め患者中心の医療を行なっています。

【乳腺科】

日本乳癌学会の定める、乳腺認定医修練カリキュラム、乳腺専門医修練カリキュラムに従い、乳腺診療全般（検診、診断、治療、緩和医療など）、学科発表、論文発表等を含め幅広い研修が可能。専門診断機器も充実しており VAB も設置している。また、日本臨床腫瘍学会・薬物療法専門（特に乳癌）医が常勤しており、術前、術後、再発時を含め幅広く薬物療法についても専門的研修が可能。

（特徴）乳腺疾患全般を網羅しており、年間手術症例は 223 件で、手術ののみならず、術前・術後の薬物療法・放射線療法、再発時の薬物療法・放射線治療、緩和治療も、腫瘍放射線科（放射線治療）、化学療法科（乳腺専門）、緩和医療科、婦人科などとの連携もよい。また、地域連携も進行中である。

（診療実績）

2014 年の年間手術症例数は 223 件で、乳癌手術症例数は 186 例、温存率は 55.9%である。

【肝胆膵外科】

日本外科学会、消化器外科学会、救急医学会等の認定施設であり肝胆膵領域の悪性腫瘍、胆嚢炎等の良性疾患、一般外科手術に対応している。後期研修医を含め 3~4 名で診療にあたっており、術前診断、手術、術後管理、化学療法、緩和医療等を他科と連携して行っている。

（診療実績）2014 年の手術件数：366 例

主な手術：（）内は腹腔鏡下手術

膵腫瘍切除：27 例（1 例） 肝腫瘍切除術：10 例（4 例）胆嚢腫瘍：5 例（1 例）

腹腔鏡下胆嚢摘出術：125 例（単孔式手術 117 例）

【消化器外科】

当院は日本外科学会および日本消化器外科学会の認定施設であり、がん診療拠点病院でもある。当院の外科の中で、当科は上部消化管外科および一般外科診療を行なっている。他に肝胆膵外科、

大腸肛門科があり、消化器系全般にわたる外科研修を受けることができる。当科の常勤医は1～2名であり、その他に2名から3名の主に後期研修医で診療にあたっている。特にがん診療に関しては、診断から手術、手術後の化学療法、再発後の治療、緩和治療などを、消化器内科、化学療法科、腫瘍放射線科、緩和医療科といった各科と連携しながらの診療、研修が可能である。

(診療実績)

2014年：胃癌手術 70例(内、腹腔鏡下幽門側胃切除 32例、腹腔鏡(補助)下胃全摘 8例)、その他の腫瘍(GIST等)6例(内、腹腔鏡内視鏡合同手術 4例)、食道癌 7例(内、胸腔鏡下食道切除 2例)、その他、鼠径ヘルニアを含めた良性疾患、緊急手術も行っている。

【大腸肛門科】

日本外科学会・日本消化器外科学会の認定施設であり、当科のみならず消化器系全般にわたる外科研修が受けられる。当科常勤医は2名、その他2名から3名の研修医で当科の診療を行なう。内視鏡検査等による診断から手術、術後の化学療法、再発後の手術や化学療法、緩和療法など大腸癌診療の全般にわたり他科にも協力を仰ぎながら行なっている。

(診療実績)

2014年実績：結腸癌手術136例(開腹手術27例、腹腔鏡手術109例)、直腸癌手術42例(開腹手術12例、腹腔鏡手術30例)、転移性肝癌手術6例、肛門疾患39例、その他イレウス、鼠径ヘルニアなど一般的外科手術も行なう。

④JA 静岡厚生連 遠州病院

指導医：外科診療部長 鈴木正彦

日本外科学会指導医・専門医、日本脈管学会専門医、消化器がん外科治療認定医、
麻酔科標榜医

指導医：外科診療部長 浅羽雄太郎

日本外科学会専門医・指導医、日本消化器外科学会専門医・指導医、日本乳癌学会認定医、
消化器がん外科治療認定医、がん治療認定医

当院は、約400床の中規模病院ですが、個人指導の時間を十分とることができるという中規模総合病院ならではの良さがあり、また、研修に必要な症例をまんべんなく経験することも可能です。コメディカルやスタッフには、研修医でもひとりの医師として尊敬して接するという雰囲気があり、非常に研修しやすい病院です。2007年4月に病院が新築移転となり、設備や医療器機が最新のものに交換され、充実しています。当科のスタッフは、常勤医7人で、一般外科、消化器外科、乳腺・内分泌外科、血管外科の治療を行うと共に、非常勤医1人(名古屋大学呼吸器外科)がおり、呼吸器外科の症例も経験することが可能です。

2010～2014年の5年間における主な手術件数は食道癌16例、胃癌165例、大腸癌261例、乳癌161例、甲状腺40例、肝切除46例、膵頭十二指腸切除30例、胆嚢結石・胆嚢炎275例、腸閉塞手術60例、痔疾患手術64例、ヘルニア手術446例、虫垂炎手術237例、血管外科手術(動脈瘤、バイパス術、下肢静脈瘤血管内レーザー焼灼術、シャント手術など)671例、呼吸器外科手術61例などで、様々な症例の経験ができます。

早期胃癌、大腸癌には内視鏡下切除、腹腔鏡下切除も行っています。乳癌治療に関しては、センチネルリンパ節生検、マンモトーム、常勤の形成外科医による乳房再建術等、最新の治療を経験することが可能です。また、マンモグラフィ勉強会を行うなど、全体がレベルアップするように積極

的に努力しています。

仕事は、院内で分業化がすすんでおり、術前検査、内視鏡治療、化学療法などは消化器科医、手術麻酔は麻酔科医が担当していますが、希望があれば、内視鏡検査の研修、麻酔科研修も可能です。

⑤浜松赤十字病院

指導医：肝・胆・膵外科部長 西脇 眞

日本外科学会専門医

指導医：乳腺外科部長 清野徳彦

日本外科学会指導医・専門医、日本乳癌学会乳腺専門医

浜松赤十字病院外科の特徴は、一般消化器外科医として必要な診断技術から手術手技、術後管理を学べることに つきます。上部消化管、下部消化管、肝胆膵領域、乳腺・甲状腺領域から胸部外科（心臓外科は除く）、血管外科まで網羅しています。浜松地区の2次救急を担っておりますので、救急医療も十分に経験できます。内視鏡外科（腹腔鏡下手術、胸腔鏡下手術）も取り入れており、経験することができます。また、超高齢者社会と言われておりますので、高齢者にたいする外科医療も十分に経験できます。

ひとつひとつの症例を上級医とともに丁寧に診断、手術、術後管理を行い、他職種と連携を取り、チーム医療を実践できるように指導します。週1回の症例カンファレンス、病理検討会を行っております。学会発表も行っています。専門医研修に必要な手術症例を経験できるように指導してゆきます。

専門医研修に十分な症例を経験できると確信しております。

⑥磐田市立総合病院

指導医：病院長 鈴木昌八

日本外科学会指導医・専門医、日本消化器外科学会指導医・専門医、日本肝胆膵外科学会高度技能指導医、日本消化器病学会指導医・専門医、日本肝臓学会指導医・専門医、日本胆道学会指導医、日本がん治療認定医・暫定教育医

指導医：消化器外科部長 落合秀人

日本外科学会専門医、日本消化器外科学会指導医・専門医、日本肝胆膵外科学会高度技能専門医、日本消化器病学会専門医、日本胆道学会指導医、日本がん治療認定医・暫定教育医

指導医：乳腺外科部長 伊藤 靖

日本外科学会指導医・専門医、日本乳癌学会乳腺専門医

指導医：乳腺外科部長 後藤圭吾

日本外科学会指導医・専門医、日本乳癌学会乳腺認定医

(研修体制と研修目標)

当院は静岡県中東遠地域の基幹病院として、急性期疾患の診断・治療の役割を担っています。また、がん診療連携拠点病院でもあり、種々の癌に対して標準的な治療から高度な外科治療まで個々の症例に見合った癌治療を行っています。このように、当院ではいろいろな疾患の経験を通して、的確な診断能力と適切な手術技能を習得することを研修目標に指導を行っています。

研修指導には日本外科学会、日本消化器外科学会、日本消化器病学会、日本消化器内視鏡学会、

日本肝臓学会、日本胆道学会、日本大腸肛門病学会、日本肝胆膵外科学会、日本乳癌学会等の指導医や専門医資格を有したスタッフが直接あたります。外科診断学や基本的な外科手技はもちろんのこと、医の倫理、周術期管理やチーム医療を遂行する協調性についても学ぶと共に、外科手術手技の段階的な研鑽ができるよう計画されています。さらに、外科関連学会での症例報告に加え、経験した貴重な症例の学術雑誌への投稿掲載を義務づけています。なお、外科専門医修練中の医師は呼吸器疾患の外科研修を当院の呼吸器・乳腺外科で受けることが可能です。

(症例の特徴)

鼠径ヘルニア、虫垂炎から消化器癌、乳腺疾患および末梢血管の疾患を幅広く扱っています。消化器外科の研修では、上部消化管（食道・胃・十二指腸）、下部消化管（小腸、大腸、肛門）から肝臓・胆道・膵臓に至るまでの消化器全般の良性疾患、悪性腫瘍の診断と外科治療、および化学療法について指導を行っています。血管外科は腹部大血管や四肢末梢血管の疾患を中心に診断と治療を行っています。血管再建を要する消化器癌治療に際しては血管外科的な技術指導に当たっています。また、乳腺外科の研修では、主に乳癌の診断から治療のすべてに関わり、内分泌療法や化学療法に関しても学ぶことができます。

(症例実績)

平成 25 年の消化器外科・血管外科と乳腺外科の総手術件数は各々 836 件、113 件であり、手術内容の詳細は以下の表のとおりです。

項目	平成 24 年	平成 25 年
胃癌切除術（鏡視下）	56 件（17 件）	70 件（25 件）
大腸癌手術（鏡視下）	138 件（44 件）	122 件（69 件）
肝切除術	48 件	43 件
膵頭十二指腸切除術	28 件	19 件
膵体尾部切除術	7 件	8 件
膵全摘術	0 件	1 件
胆嚢摘出術（鏡視下）	97 件（60 件）	96 件（60 件）
虫垂切除術	102 件	79 件
腹膜炎手術	40 件	35 件
鼠径ヘルニア根治術	135 件	122 件
腹部大動脈瘤手術	0 件	0 件
末梢動脈バイパス術	4 件	2 件
下肢静脈瘤手術	27 件	32 件
乳癌手術（両側）	62 件（2 件）	96 件（1 件）
乳房再建に関する手術	7 件	5 件
良性乳腺腫瘍摘除術	5 件	10 件
その他の乳腺手術	7 件	2 件

⑦中東遠総合医療センター

指導医：診療部長 久世真悟

日本外科学会指導医・専門医、脈管専門医

指導医：外科部長 京兼隆典

日本外科学会指導医・専門医、消化器外科学会指導医・専門医、乳癌学会認定医

指導医：外科部長 河合 徹

日本外科学会指導医・専門医、消化器外科学会専門医、日本内視鏡外科学会技術認定医

掛川市立総合病院と袋井市民病院の統合により中東遠総合医療センターが平成 25 年に開院して約 2 年になります。当科では一般外科（ヘルニア、肛門疾患など）、消化器外科（食道癌、胃癌、大腸癌、肝臓癌、胆管癌、胆嚢癌、膵臓癌などの悪性疾患や胆石症、総胆管結石、外傷、虫垂炎、腸閉塞など）、血管外科（下肢静脈瘤、腹部大動脈瘤、閉塞性動脈硬化症、静脈瘤レーザー・stent などの血管内治療）、内分泌外科（甲状腺・乳癌）の手術を行っています。内視鏡の手術も積極的に行っており、内視鏡外科学会技術認定医、内視鏡手術支援ロボット（ダヴィンチ）サーティフィケート修得医の指導による内視鏡外科の研修も可能です。個々の希望に沿った研修を行います。日本外科学会・消化器外科学会認定施設・乳癌学会関連施設として消化器外科を中心に外科専門医の修得を目指します。

平成 25 年 5 月～平成 26 年 3 月実績

項目名	件数
腹腔鏡下虫垂切除術	76
ヘルニア根治術	142
腹腔鏡下胆嚢摘出術	93
幽門側胃切除 (内 腹腔鏡下)	50 19
胃全摘術	25
結腸・直腸癌手術 (内 腹腔鏡下)	94 54
膵頭十二指腸切除	13
肝切除術	18
乳房切除術	48
下肢静脈瘤血管内焼灼術	114

⑧焼津市立総合病院

指導医：副院長 平松毅幸

日本外科学会専門医、日本消化器外科学会専門医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医
検診マンモグラフィ読影認定医、日本医師会認定産業医、臨床研修指導医

指導医：消化器外科長兼中央手術室副室長 高林直記

日本外科学会専門医・指導医、日本消化器外科学会専門医・指導医、
日本内視鏡外科学会技術認定取得、検診マンモグラフィ読影認定医

指導医：一般外科長 石原行雄

日本外科学会外科専門医・指導医、日本消化器外科学会認定医、
日本がん治療認定医機構がん治療認定医、検診マンモグラフィ読影認定医、
日本大腸肛門病学会専門医、日本臨床腫瘍学会暫定指導医、臨床研修指導医

指導医：乳腺外科長 長谷川聡

日本外科学会外科専門医・指導医、日本乳癌学会乳腺専門医、

日本がん治療認定医機構がん治療認定医、検診マンモグラフィ読影認定医、
消化器がん外科治療認定医、日本消化器病学会・消化器病専門医、臨床研修指導医

「焼津市立総合病院」は病床数471床で、静岡県中部志太榛原地区の中核的病院の一つです。呼吸器外科・血管外科は独立することなく、外科として診療をしています。消化器・一般外科に関しては、がんの手術が約30%、緊急手術症例が約25%と、あまり偏ることなくさまざまな手術症例を経験することが可能です。緊急手術症例では消化管穿孔、絞扼性イレウス、ヘルニア嵌頓、虚血性腸疾患等、幅広い症例の診断・治療・術後管理を経験することが可能です。乳腺の検査としては、tomosynthesis 機能付きデジタルマンモグラフィとABVSエコーにより、乳がんの正診率の向上と病変の広がり of 正確な把握に努めています。乳腺関連の手術としては、形成外科とのコラボにより、乳房再建術（一次・二次X一期・二期の組み合わせすべて）、リンパ浮腫の改善を目的とするリンパ管静脈吻合術も行っています。

⑨藤枝市立総合病院

指導医：副院長 中村利夫

日本外科学会指導医・専門医、日本消化器外科学会指導医・専門医、
日本消化器病学会指導医・専門医、日本大腸肛門病学会指導医・専門医、
日本消化器内視鏡学会指導医・専門医、日本がん治療認定医機構認定医

指導医：外科部長 白川元昭

日本外科学会専門医・指導医、日本脈管学会専門医、腹部ステントグラフト実施医、
下肢静脈瘤に対するレーザー焼灼術の実施基準による実施医

県中部に位置する藤枝市の基幹病院で、病床数は526床を有し、地域がん診療連携拠点病院、地域医療支援病院として地域の医療を担っています。

当科は、スタッフそれぞれが、専門領域を持ち、その分野の診療に責任を持つとともに、協力して診療に当たる体制にあります。心臓血管外科・呼吸器外科は、別の診療科として独立していますが、これ以外の上・下部消化管・肝胆膵領域・乳腺・甲状腺・末梢血管・小児外科と概ね全領域をカバーしています。H23年の主な疾患の年間症例数は、別表のとおりです。

外科専門医取得のために、充実した研修が行える環境にあると思います。

(項目)	H23年 症例数	(項目)	H23年 症例数
胃がん	51例	胆のう摘出	81例
大腸がん	121例	甲状腺・上皮小体手術	21例
肝がん	6例	末梢血管手術	78例
胆道・膵がん	14例	ヘルニア(成人)	111例
乳がん	107例		

⑩静岡県立総合病院

指導医：副院長・がん診療部長 高木正和

浜松医科大学臨床教授、日本外科学会指導医・専門医、日本消化器外科学会認定医、
日本がん治療認定医機構がん治療認定医／暫定教育医、
日本臨床腫瘍グループ（JCOG）メンバー（胃がんグループ、食道がんグループ）

指導医：緩和医療監・主任医長 中上和彦

日本外科学会指導医・専門医

「静岡県立総合病院」は静岡県中部の中核的病院であり、がん診療連携拠点病院として、手術症例の70%をがんに対する手術が占めています。

当科では消化器がんに関しては、診断は消化器内科、外科医は手術という完全な分業が成立しており、外科医は腹腔鏡手術から拡大郭清を伴う手術まで幅広く行っています。

乳腺外科、上部消化管外科、大腸外科、肝胆膵外科にそれぞれ主任医長を置き、より専門的な外科治療を推進しています。JCOG（日本臨床腫瘍グループ）をはじめとして複数の多施設共同臨床試験にも多数参加しており、全国レベルの医療水準の維持と新たな標準治療の開発に取り組んでいます。

心臓血管外科、呼吸器外科はともに別の診療科ですが、専門研修の若手医師たちは各診療科間を交互に行き来してそれぞれの分野の手術経験を集積しています。また、同じ地方独立行政法人に属する「静岡県立こども病院」にて小児外科の研修が可能です。

平成 25 年手術症例数

① 上部消化管

胃癌：総手術数 178 例（内鏡視下手術 39 例 臨床試験参加中）

胃十二指腸良性：総手術数 15 例

食道癌：総手術数 59 例（内鏡視下手術 23）

食道良性：総手術数 5 例

② 下部消化管

大腸手術件数（がん以外のものを含む） 332 例

開腹手術 175 例

腹腔鏡下手術 157 例

③ 肝胆膵外科

肝臓：肝切除 97 例（腹腔鏡手術 13 例）

原発性肝癌 67 例（肝内胆管癌 10 例）、転移性肝癌 26 例、その他 4 例

胆道：胆道悪性腫瘍： 22 例

胆石など胆嚢良性疾患 186 例（開腹 36 例 腹腔鏡 150 例）

膵：膵癌 36 例（膵頭十二指腸切除 19 例 膵体尾部切除 13 例 バイパス手術など 7 例）

膵良性 3 例

④ 乳腺

乳癌総数 286 例（非手術 4 例 両側 12 例を含む）

手術

乳房切除 139 例、 乳房温存 142 例、 その他 1 例
(術前化学療法 39 例、 センチネルリンパ節生検 236 例)
良性腫瘍切除 17 例

⑪富士宮市立病院

指導医；副院長 川辺昭浩

日本外科学会指導医・専門医、日本消化器外科学会指導医・専門医、がん治療認定医

指導医；外科科長 鈴木憲次

日本外科学会指導医・専門医、日本消化器外科学会指導医・専門医、がん治療認定医

指導医；外科科長 磯垣 淳

日本外科学会指導医・専門医、日本消化器外科学会指導医・専門医、
日本消化器内視鏡学会専門医、日本内視鏡外科学会技術認定医

指導医；外科科長 山下公裕

日本外科学会専門医、がん治療認定医

当院の腹腔鏡手術は日本の内視鏡外科手術の先駆者である木村泰三名誉院長の指導の下、非常に高い技術レベルにあります。腹腔鏡手術は胆石症以外にも消化管穿孔、ヘルニア、腸閉塞、胃癌、大腸癌、虫垂炎などさまざまな疾患に行っています。また臓器別に担当医師がおり、それぞれに専門性の高い経験と技術に基づき責任を持って診療にあたっています。

当科で施行する手術の約 1/3 が緊急手術です。急性胆嚢炎、急性虫垂炎、消化管穿孔、ヘルニア嵌頓、イレウスなどあらゆる緊急症例に対応しています。麻酔科医を含めた手術室、外科病棟のスタッフも充実しており、スムーズに緊急症例の手術が可能です。

治療実績としては、主な悪性腫瘍の年間の手術症例数は胃癌 30～40 例、大腸癌約 100 例、肝癌約 10 例、乳癌約 50～60 例です。外科における年間総手術件数（局所麻酔手術を除く）は、H23 年度 562 件、H24 年度 539 件、H25 年度 545 件でした。

8 研修期間

研修期間は最短で 5 年です。各々の先生の希望に応じて研修内容や研修期間を変更することは可能です。

9 プログラム参加の要件

- ・ 初期臨床研修を終了していること
- ・ 消化器外科専門医、または乳腺専門医を目指していること
- ・ 日本外科学会に加入すること
- ・ 消化器外科専門医を目指す場合は日本消化器外科学会に加入すること
- ・ 乳腺専門医を目指す場合は日本乳癌学会に加入すること
- ・ 日本内視鏡外科学会技術認定医を目指す場合は日本内視鏡外学会に加入すること

10 処遇

- ・ 原則として各病院の常勤医として採用されます。
- ・ 給与その他の処遇は、それぞれの病院に従います。

11 プログラム終了後の進路

静岡県内の病院で地域医療を担うこと、さらなる専門性を目指して国内留学や海外留学をすること、また浜松医科大学大学院に入学することなど個々の希望に応じたお手伝いが可能です。

12 プログラム運営委員会

○プログラムの管理

〒431-3192 浜松市東区半田山 1-20-1 浜松医科大学第一外科 和田英俊

電話 053-435-2276 Fax 053-435-2272 E-mail : wadahide@hama-med.ac.jp

〒431-3192 浜松市東区半田山 1-20-1 浜松医科大学第一外科 小倉廣之

電話 053-435-2276 Fax 053-435-2272 E-mail : h.ogura@hama-med.ac.jp